

幼児児童生徒の 思考力を育むために

広島県立呉南特別支援学校 聴覚障害部門

平成28年度～平成30年度 研究テーマ

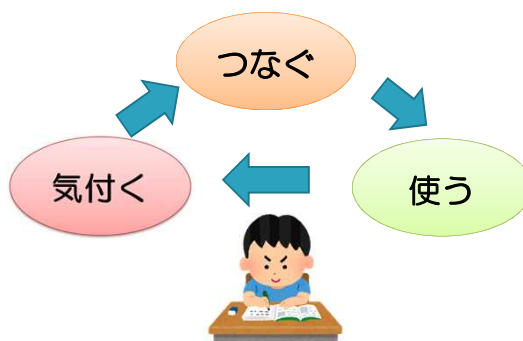
聴覚障害部門

幼児児童生徒の思考力を育むために

主体的な学びを行うために～ICEモデル～

Ideas 【アイデア】	Connections 【つながり】	Extensions 【応用】
<ul style="list-style-type: none"> ・学習に必要な知識 ・語彙 ・基本的な概念 ・学習過程における複数のステップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアとアイデアのつながり・関係 ・学んだことと既存知識を関連付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを別の場面で活用する ・自分なりに工夫する
<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">気付く</div>	<div style="border: 2px solid yellow; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">つなぐ</div>	<div style="border: 2px solid green; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">使う</div>

【呉南版】学びを「活用する力」を 育む授業づくり



聴覚障害部門研究テーマの設定

幼児児童生徒の思考力を育むために

幼児児童生徒
の実態



聴覚障害部門研究テーマの設定

幼児児童生徒の思考力を育むために

指導の改善点



3年間の研究

平成28年度
(1年目)

- 研究テーマの設定及び実態把握
- 授業づくりのポイントの整理
- 3つのキーワードを意識した授業づくり

平成29年度
(2年目)

- 授業実践
- 幼小連携に焦点を当てたチェックリストの作成

平成30年度
(3年目)

- 学部間・学年間のつながりを意識した授業づくり

平成28年度 授業づくりのポイント作成

2 授業のポイント

① 授業のポイント

② 目的

- ・ 授業の目的を達成し、児童が主体的に学習できるようにする。
- ・ 児童の理解を深め、応用する力を育てる。
- ・ 児童の興味・関心を高め、主体的に学習できるようにする。
- ・ 児童の学習態度を良くし、学習意欲を高める。

③ 授業

- ・ 授業の導入、展開、まとめ、振り返りを適切に行う。
- ・ 児童の理解を深め、応用する力を育てる。
- ・ 児童の興味・関心を高め、主体的に学習できるようにする。
- ・ 児童の学習態度を良くし、学習意欲を高める。

④ ノート作成

- ・ ノート作成の目的を達成し、児童が主体的に学習できるようにする。
- ・ 児童の理解を深め、応用する力を育てる。
- ・ 児童の興味・関心を高め、主体的に学習できるようにする。
- ・ 児童の学習態度を良くし、学習意欲を高める。

平成29年度 チェックリスト作成

2. 幼稚園		
就学までに身に付けておきたい【言語・認知面】		
<p>① 何について話せるか</p> <p>② どこで話せるか</p> <p>③ 何を話せるか</p> <p>④ どうして話せるのか</p> <p>⑤ どうして話せるのか</p> <p>⑥ どうして話せるのか</p>	<p>① 何について話せるか</p> <p>② どこで話せるか</p> <p>③ 何を話せるか</p> <p>④ どうして話せるのか</p> <p>⑤ どうして話せるのか</p> <p>⑥ どうして話せるのか</p>	<p>① 何について話せるか</p> <p>② どこで話せるか</p> <p>③ 何を話せるか</p> <p>④ どうして話せるのか</p> <p>⑤ どうして話せるのか</p> <p>⑥ どうして話せるのか</p>

平成30年度 各発達段階で付けたい力の整理

学部	付けたい力
中学部	結論に至る思考の過程を、言葉（日本語）で正確に理解し、適切な言葉で説明することができる。
小学部 高学年	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成を考えて話することができる。
小学部 中学年	理由や事例を挙げながら、話の中心に焦点を当てて話することができる。
小学部 低学年	行動したことや経験したことを、順序に沿って話すことができる。
幼稚部	自分の経験や思いを言葉で表すことができる。

平成30年度 目指す幼児児童生徒の姿の整理

学部	付けたい力
中学部	気付く・つなぐ・使うが自分でできる。（既習事項を用いてそれを使おうとする意識をもたせる）
小学部 高学年	気付く・つなぐ・使うを学習の中で自分でできるようになる。（気付く・つなぐまでは確実に）
小学部 中学年	気付く・つなぐまでを繰り返し、自分で整理することができる。
小学部 低学年	気付いたことを相手に分かるように伝えることができる。
幼稚部	いろいろな気付きをことばで話すことができる。

成果

- 予備知識の習得や学習につながる経験の蓄積が、授業の際の気付きにつながり、思考する際の材料となることが分かった。
 - 教材研究の在り方について、見直すことができた。
- <ポイント>
- ・ 教科学習の基礎となる知識や概念が身に付いているか、実態把握を行う。
 - ・ 身に付いていなければ、授業までにどのような生活経験を積み重ねればよいか検討する。

課題

- 教材研究の在り方について再検討をする。
- 幼児児童生徒の望ましい準備態勢（レディネス）をどの観点で設定するか
 - 実態把握のためにどのようなレディネステストを行えばよいか
 - レディネスを整えるための活動をどのように設定すればよいか

令和元年度 聴覚障害部門研究テーマ検討

幼児児童生徒の思考力を育むために

幼児児童生徒
の実態

学習言語への
移行に課題

書く・話す・
考える経験の
不足

言語力に課題
がある。

学習の基盤と
なる生活経験
の不足



令和元年度 聴覚障害部門研究テーマ検討

幼児児童生徒の思考力を育むために

指導の改善点

実態把握に基づ
くレディネスを
整える研究

思考につながる
発問の工夫

言語力を育む
手立て



令和元年度の研究テーマ

幼児児童生徒の思考力を育むために

～レディネスを踏まえた
授業づくり～

研究仮説

学習活動のレディネスを「基礎知識」「言語力」「生活経験」で捉え、支援することで学習の定着につながる。

検証方法の検討

授業力評価シートの項目を参考にして行う。

- 幼児児童生徒の変容を検証する指標
- 教師の手立ての妥当性を検証する指標